

私たちにできること

熊本県立済々黌高等学校 二年 津元あかり

「拉致問題」と聞いても、これまでの私は昔起こった大変な問題だ、という漠然とイメージを持つだけだった。しかし、今回拉致問題についての作文を書くことを決め、拉致問題を詳しく調べたことで、感じること、考えることが多くあつた。

調べていく中で強く印象に残つたのが、田口八重子さんの拉致の話である。田口八重子さんは女手一つで子ども二人を育てるために夜遅くまで働いていたという。仕事が終わるのは深夜。そんな時間に子ども達を起こしてしまるのは可哀想だから、という理由で、彼女はいつも、子供達をベビーホテルに預けてから出勤していた。しかしある日、いつものように子ども達をベビーホテルに預けた後、田口八重子さんは拉致された。この話を聞いて、私は表現しようがない心苦しい気持ちになつた。自分の知らない場所に、突然連れて行かれてしまうのにどれだけ恐怖を感じただろう。子ども思ひだつた彼女は、どれだけ子ども達のことを心配に思つただろう。きっと、私たちが想像できないほどの苦しみを味わつたはずだ。

そして、このような悲惨な現実を伝えてくれる、被害者家族の方々の高齢化が問題となつていて。まだ拉致問題は完全に解決したわけではないのに、拉致問題について知らないから、といった理由で、このまま解決されずに終わつてしまふのは、あつてはならないことだと思う。

では、私たちにできることは何なのか。私が考える大切なことは、私たち一人ひとりが拉致問題についてより詳しく理解することである。過去の出来事、自分には関係の無い出来事だと捉えてはいけないのではないかと思う。時代や場所が違えば、自分の身の周りで起きた問題であるかもしれないのだ。そういった共感や想像力は、拉致問題について知ることで生まれてくるのだと思う。また、拉致問題についての認識を社会に広めるためには、教育現場での人権学習として拉致問題を取り上げたり、多くの人の目に入るインターネットを用いて情報を発信したり、署名活動を行つたりといったことが大切であると考へる。こういった、一人ではできない、多くの人の力が必要になる活動をみんなで協力して行うことで、この拉致問題を解決する一步になるのではないか。